〔山城志二〕風俗　水甘土厚、人嗜技藝、性稟寛舒、多文雅士、勁勇間豪傑、沈靜有工思、北山郷民、樸素存古風、

〔雍州府志一風俗〕山城國中州而帝都之所有也、故古今之間、材德技藝之人不可勝數、故人物措而不論、依之不置人品門、凡國中人情寛舒而無疎豪之氣、是又中土地氣之所使然者乎、

〔徒然草下〕悲田院の堯蓮上人は、俗姓は三浦のなにがしとかや、さうなき武者なり、故郷の人の來りて物語すとて、あづまの人々に、いひつることはたのまるれ、都の人はことうけのみよくて實なしといひしを、聖それはさこそおぼすらめども、をのれは都にひさしくすみて、なれて見侍るに、人の心おとれりとは思ひ侍らず、なべて心やはらかに情あるゆへに、人のいふほどの事、けやけくいなびがたくて、よろづえいひはなたず、心よはくこたうけしつ、いつはりせんとは思はねど、ともしくかなはぬ人のみあればをのづからほいとをらぬ事おほかるべし、あづま人はわがかたなれど、げには心の色なくなさけをくれ、ひとへにすぐよかなるものなれば、はじめよりいなといひてやみぬ、にぎはひゆたかなれば、人にはたのまるゝぞかしと、ことはられ侍りしこそ、此ひじりこゝろ打ゆがみ、あら〳〵しくて、聖教のこまやかなることはり、いとわきまへずもやと思ひしに、此一ことばの後、心にくゝなりて、おほかる中に、寺をも住持せらるゝは、かくやはらぎたるところありて、其益もあるにこそとおぼえ侍し、

名所

〔日本鹿子一山城〕名所の類

白川　南禪寺のおくなり、寺の門前より西へ流たる川也、略○中

岩藏山　此名洛の四方にあり、帝都鎮護の爲に、一切經を書て四方の山に埋れし故、此名ありといへり、東の岩くらは、白川の東南禪寺の上なりと云、北は松が崎の後、西はよしみね也、南は大和の國にあり、略○中